

事業団理念 ともに生きる心を育み ともに歩む社会の実現

発行：社会福祉法人大阪府障害者福祉事業団 茨木市立障害福祉センターハートフル

〒567-0819 茨木市片桐町4番26号 TEL.072-620-9818 FAX 072-620-9812

発行責任者：所長 原稔 令和7年1月31日

【ごあいさつ】

年末に干支をモチーフにした大きなへびをアート展に出展しました。大迫力でタイトルは「実のなる巳年」にしました。テーマである「さんすくみ」を飾るナメクジと蛙も揃って、良いテイストの作品たちが楽しませてくれました。へびにはほかにもいろいろなお話があります。「蛇足」という言葉は、余計なものや不必要なものを意味しています。流行りのシンプルスタイルや断捨離の勧めからは逆行しますが、特に芸術の分野ではこの「蛇足」が加わることにより新たな価値や独特の個性を生み出し、デザインに無限の可能性を感じることがあります。「あり」か「なし」かではなく、「あってもいいよね」が尊重される芸術の世界。そういったファジーなゆとりの心をもってまた、1年を過ごしたいと思います。

蛇足になりますが・・・今年私、巳年の年男です。(ほんとうにどうでもいいことですね)今年もみなさま、幸多い年になりますように。どうぞよろしくお願いいたします。所長 原稔



ハートフル玄関に、張り子で作られて絵付けされたへびが飾られている。



おにクルの外観の様子。

【おにも見にクルアート展】

令和6年12月3日(火)～6日(金)の期間、「おにクル」オープンギャラリーにて市内の福祉サービスの事業所から個性豊かな数々の作品が集結し、「ダイバーシティアート展」「ちかつアートフェスタ」「障害者の手作り作品展スペシャル」「アールブリュット展」が開催されました。ハートフルからは生活介護・地域活動支援センターⅡ型・陶芸講座・北摂地域で生の芸術を創る作家のみなさんの作品を出展しました。多彩な作品で溢れる素晴らしいアート展となりました。



《おにも見にクルアート展 横断幕》おにも見にクルアート展と書かれた黄色の横断幕が天井に近い、高い場所からつるされている。



障害者の手作り作品展スペシャル《生活介護の作品》釘と色付きの糸で作成された大きなハートが飾られている。



アールブリュット展《巳》絵付けされた木枠の展示台の下に潜り込むように配置されている絵付けされた大きなヘビ。



ちかつアートフェスタ《きつね巫女》きつねの絵付けをされた仮面と布で作られた巫女服が展示台に飾られている。

【ハートフル作品展・アールブリュット展】

「おにも見にクルアート展」に引き続き令和6年12月10日（火）～14日（土）の期間、ハートフル1階ロビーにてハートフル作品展・アールブリュット展を開催しました。おにクルに出展されたみなさんの作品を中心に、アトリエこぐま・陶芸講座・絵画講座の受講者の作品が展示されました。また、正面玄関には茨木幼稚園の園児のみなさんに色付けをしてもらった「蛇」を飾り、作品展に花を添えました。



ジが並んでいる。

《さんすくみ》陶芸で作られた緑色のカエル、肌色のへビ、肌色のナメク



《作品展会場の様子》1階ロビー。左側はハートフル作品展、右側はアールブリュット展。中央のパーティションにより区切られており、パーティションの上部にはミャクミャクの絵が飾られている。



ている。

《ペーパークイリングの作品》数々のペーパークイリングの作品が飾られ



《北摂地域の作家のみなさんの作品》数々の陶芸作品が飾られている。



《生活介護・地域活動支援センターの作品》数々の作品が飾られており、左側には地域活動支援センターの作品、右側には生活介護の作品が飾られている。



《北摂地域の作家のみなさんの作品》1階福祉情報コーナーの場所に数々の作品が飾られている。

【普通救命講習を受講しました】

ハートフル職員を対象とした普通救命講習に、茨木市消防署に来ていただきました。誰かが「倒れている」「意識がない」「心停止」などの場面に遭遇したとき、救急車が到着するまでの間、どのような対処をしたらよいか救命処置の重要性と実技を学びました。事前に各自で「応急手当WEB講習」を受講し実技に臨みましたが、パソコンの画面で見ると、目の当たりにするのは大違い。緊迫感を感じました。実技では、早期認識・119番通報・一次救命処置・「心肺蘇生（胸骨圧迫）AED」の方法・注意点を教えていただき、1人ずつ交代で心肺蘇生の一連の流れを練習しました。救急車が到着するまでの間、慌てないで正確に救命活動をし、救急隊員の方に引継ぎができるよう、これからも定期的に訓練を行います。



職員が普通救命講習を受講している様子。茨木市消防署隊員が前に立ち、講義を行っている。



消防隊員が心肺蘇生（胸骨圧迫）を実演している様子。

【茶話会のご報告】

昨年11月、事業ごとにハートフルの茶話会を実施しました。毎年恒例となりました茶話会は、ハートフルを利用されているみなさまと意見交換のできる貴重な時間です。今回も利用者満足度アンケートの調査結果を踏まえて、多くのご意見をいただき誠にありがとうございました。始終和やかな雰囲気の中、それぞれの事業を通して良い評価や励ましのお言葉をいただきました。今以上に満足いただけるサービスを提供できるよう努めてまいります。また、不安に思われる事柄やご意見・ご要望につきましては、真摯に受け止め改善策を検討してまいります。みなさまからのご意見や利用者満足度アンケートの詳細につきましては、中に挟んでいます臨時号をご覧ください。

障害のある人も
ない人も ^{もっと}ハートフルに

(イラスト：障害のある人もない人ももっとハートフルに)

機関紙「ハートフル」第40号 ここまで